

Movement Patterns and Residency of the Critically Endangered Horseshoe Crab *Tachypleus tridentatus* in a Semi-enclosed Bay Determined Using Acoustic Telemetry

超音波テレメトリーを使って明らかにされた、半閉鎖的湾内における絶滅危惧種カブトガニの移動パターンと滞在性

著者：和田年史・満潮隆寛・井上進也・小池裕子・河邊 玲

雑誌の情報：PLOS ONE, 11(2): e0147429, 2016年



和田年史

■ 論文の内容

この研究は、福岡県の津屋崎沿岸域において個体識別型の超音波発信器機をカブトガニ成体に装着し、海中に設置した音響受信機を通して各個体の行動を追跡することによって、湾内での移動パターンや滞在性、越冬場所等を明らかにしたものです。我が国のカブトガニは、近年の相次ぐ経済優先の人間活動によって多くの生息環境を失い、現在絶滅の危機に瀕しています。近年、海外の台湾や香港などでも本種の減少傾向が報告されており、今後も引き続き、各地域でカブトガニが減少している要因を科学的調査によって解明し、積極的な保全対策を講じていくことが期待されています。

■ 研究員から一言！

生活史を通して砂浜・干潟・アマモ場等の多様な沿岸環境を利用するカブトガニは、沿岸生態系保全のシンボリックな存在と言えます。カブトガニを守るためには、沿岸生態系全体を包括した保全対策が求められます。